

地方創生関連交付金等事業評価シート

資料5-1-1

事業名	住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業		事業期間	平成28年度～平成30年度					
			所管課	福祉総務課					
交付金事業の概要	○高齢者等を対象に日常生活で起こるちょっとした困りごとを支援・解決する「地域住民どうしの助け合いの活動」を促進・支援する。								
事業の背景及び目的	○本市は、過去に人口増加率が府内でも1位、2位を争うなど、和泉中央駅周辺を中心にベッドタウンとして人口増加を続けてきたが、昭和40年代に開発されたニュータウン等では高齢化が進み、独居世帯や空き家等が増加し、地域の絆が薄れつつある。 ○また、市南部地域では、通勤、通学の時間帯にバスを運行し、公共交通を維持しているものの、交通網は脆弱であり、人口減少が続いている。 ○これらのことから、地域住民が支えあいながら生活を送ることができる環境を整え、多世代が交流する機会の創出を図るとともに、デマンド型交通による乗合輸送の実証運行を実施するなど、住み慣れた地域で持続的に安心して暮らすことができるコミュニティの形成を目指す。								
予算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)	決算	内訳	金額(円)	内訳	金額(円)
	報償費	1,788,000	通信運搬費	11,000		報償費	204,000	通信運搬費	576
	消耗品費	83,000	会場使用料	29,000		消耗品費	37,882	会場使用料	27,000
	食糧費	8,000	複写機借上料	19,000		食糧費	3,399	複写機借上料	8,802
	印刷製本費	4,000	補助金	5,355,000		印刷製本費	0	補助金	990,304
	計		7,297,000			計		1,271,963	
平成30年度の取組	取組①名称：「地域住民どうしの助け合いの活動」の支援								
	取組の内容	○「地域住民どうしの助け合いの活動」を実施する団体の活動経費に対して補助金を交付し、支援した。 (補助対象経費) ・事務所賃借料 ・事務所改装費 ・活動用備品等 ・周知用の印刷費等 ※補助は、各団体1回限り		取組の意図・目的	○団体の活動に要する経費の一部を補助し、団体の設立や新たな活動を支援する。				
				取組の実績・成果	○1団体に対して、補助金を交付した。 【補助金交付団体】 ・光明台1丁目シルバーサポートの会 【補助内容】 ・活動用備品等購入費…500,000円 ・周知用の印刷費等…32,400円 ・事務所改装費…457,904円				
取組②名称：事業報告書の作成									
取組の内容	○「地域住民どうしの助け合いの活動」を取りまとめた報告書を作成した。 <事業報告書の内容> ・地域団体の取組みの紹介 ・団体設立の経緯 ・活動を始める際のポイント		取組の意図・目的	○今後、地域住民どうしの助け合い活動を始めようとする地域や団体に対し、団体設立の一助になる事業報告書を作成する。					
			取組の実績・成果	○事業報告書を作成し、活動団体の活動内容等を明確にしたことで、今後、地域住民どうしの助け合い活動を実施しようとする団体等が開設準備や運営の流れをつかむことができるようになった。					
取組③名称：協議会の開催									
取組の内容	○「みんなで取り組む地域づくり協議会」を開催し、事業報告書に記載する内容や3年間の事業を踏まえた今後の取組等について検討した。 (開催回数)4回		取組の意図・目的	○「地域住民どうしの助け合いの活動」に関する課題や問題点の解決に向けた検討を行う。					
	○和泉市社会福祉協議会と協働で進めている地域住民同士が地域の課題について協議・検討する会議の「協議の場」を活用した啓発を実施した。		取組の実績・成果	○協議会の意見を反映した事業報告書を作成することができた。 ○各団体の情報やノウハウを共有するため、事業終了後も各団体が集まる機会をつくることができた。					

KPI (重要業績評価指標)	交付金対象事業	KPI① : サービス利用者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成30年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
		94	249	326	249
		KPI② : 高齢者雇用者数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成30年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
		23	75	75	75
		KPI③ : 提供サービス数			
		現状値 (平成27年度)	目標値 (平成30年度)	実績値	【参考】数年後の目標値 (平成30年度)
		8	60	37	60
	総合戦略における位置付け	基本目標	町会・自治会や近隣住民と十分にコミュニケーションが取れていると思う市民の割合		
数値目標		H25 42.3% ⇒ R1 50.0%			
所管課の評価	平成30年度における取組の効果	評価	評価理由		
		B 効果的だった	<p>○団体の設立に要する費用等に対して補助したことで、新たな団体の設立につながり、活動団体を1団体(光明台1丁目シルバーサポートの会)増やすことができた。</p> <p>○「協議の場」を活用した啓発がきっかけになって、横山地区で「地域住民どうしの助けあい活動」を実施する団体が立ち上がった。</p>		
目標値達成状況にかかるとの要因分析	2 達成	評価	評価理由		
		<p>○新たに活動団体を1団体増加させることができたため、サービス利用者数や高齢者雇用者数を増加させることができた。</p> <p>○提供サービス数については、団体が追加されたことで昨年度より増加したものの、既存団体のサービスメニューを増加させることができず、目標値を達成することができなかった。</p>			

交付金事業における各取組の総括(福祉総務課)

資料5-1-2

ニーズ調査の実施

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成28年度	<p>○地域のニーズを把握し、事業計画へ反映するためアンケート調査を実施。 【調査対象】 平成28年10月1日現在の市内在住で、18歳以上の方 【対象者数】 3,000人 【調査方法】 郵送による配布・回収</p>	<p>○アンケート調査結果を基に、住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業に係る調査報告・事業提案書を作成した。 【アンケート回収数】1,531通 【アンケート回収率】51.0%</p>	<p>○地域にどのような悩みや困りごとがあり、どのようなサービスを求められているのか、把握することができた。 ○アンケート調査をまとめた調査報告・事業提案書が本事業を進めていく指針となった。</p>	<p>○アンケートで、子育て支援等に対するニーズが高いことがわかったが、ニーズの高いサービスを提供する体制が構築できていない。</p>

みんなで取り組む地域づくり協議会の立上、運営等

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成28年度	<p>○地域の関係機関及び関係団体等から地域課題等について意見聴取・協議を行う協議会を立ち上げた。 (開催回数) 2回 (協議会の構成メンバー) 学識経験者、町会連合会、民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、校区社会福祉協議会、シルバー人材センター等の関係機関の代表者。関係団体の代表者、行政機関 (計18名)</p>	<p>○下記について検討した。 ・ニーズ調査の設問等の検討 ・ニーズ調査結果を踏まえて作成した事業提案書の内容の検討 ・今後の事業推進にかかる取組の検討 等</p>	<p>○様々な関係機関からなる協議会で議論を行い、アンケート調査作成において幅広い意見を取り入れることが出来た。</p>	<p>○協議会において、活動する地域や団体を増やすためには、地域に直接出向く等のアプローチが必要との意見をいただいたが、十分に取り組むことができなかった。</p>
平成29年度	<p>○新たな地域団体の募集方法や研修内容について協議会で検討した。 (開催回数) 3回 ○和泉市社会福祉協議会と協働で進めている地域住民同士が地域の課題について協議・検討する会議の「協議の場」を活用した啓発を実施した。</p>	<p>○新たな地域団体の募集方法や研修内容について、検討した。</p>	<p>○「協議の場」を通じて、新たな団体立ち上げのアプローチを行い、新たに1つの団体が平成30年3月から活動を開始した。</p>	<p>○活動団体が1つ立ち上がったが、地域の中で助け合い活動が必要だという意識が醸成されていたことが要因のひとつ。地域にそのような意識がなければ、活動開始へ繋げることは難しいと感じた。</p>
平成30年度	<p>○事業報告書に記載する内容や3年間の事業を踏まえた今後の取組等について協議会で検討した。 (開催回数) 4回 ○「協議の場」を活用した啓発を実施した。</p>	<p>○協議会の意見を反映した事業報告書を作成することができた。</p>	<p>○各団体の情報やノウハウを共有するため、事業終了後も各団体が集まる機会をつくることとなった。 ○新たに活動を始めようとする団体の立ち上げに本事業のモデル団体が支援を行っていく。</p>	<p>○事業終了後も市が一旦は事務局として招集や場所の提供を行うことになったが、いずれは各団体に招集や場所の確保をしてもらえるように促していく。</p>

「地域住民どうしの助け合いの活動」の支援

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成28年度	<p>○「地域住民どうしの助け合いの活動」を実施しているモデル地域がチラシを作成した。</p> <p>【モデル地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青葉台 ・緑ヶ丘 ・鶴山台北 	<p>○活動地域内で全戸配布を年2回行った。</p>	<p>○モデル団体が積極的に活動周知に取り組み、サービス利用者及び新たなサポーターの増加につながった。</p>	<p>○市として周知に係る具体的なサポートを実施することはできなかった。</p>
平成29年度	<p>○団体の活動に要する経費の一部を補助し、団体の設立や新たな活動を支援した。</p> <p>(補助対象経費)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務所賃借料 ・事務所改装費 ・活動用備品等 ・周知用の印刷費等 <p>※補助は、各団体1回限り</p>	<p>○既存2団体に対して、補助金を交付した。</p> <p>【補助金交付団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サポート緑ヶ丘営繕グループ ・鶴山台北校区高齢者サポートセンター <p>【補助内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動用備品等…823,316円 ・周知用の印刷費等…14,040円 	<p>○既存団体が補助を活用してチラシを作成するなど、事業周知が充実し、サポーター数の増加や団体の活性化につながった。</p>	<p>○モデル団体のうち1団体が市の他の補助制度を利用していたため本事業の補助金利用に繋がらなかった。</p>
平成30年度	<p>○平成29年度と同様に、団体の活動に要する経費の一部を補助し、団体の設立や新たな活動を支援した。</p>	<p>○新規1団体に対して、補助金を交付した。</p> <p>【補助金交付団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・光明台1丁目シルバーサポートの会 <p>【補助内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動用備品等購入費…500,000円 ・周知用の印刷費等…32,400円 ・事務所改装費…457,904円 	<p>○新たな団体が補助金を活用し、活動を開始した。</p>	<p>○補助制度を活用せず団体を立ち上げるケースもあり、単純な補助より、地域の意識付けや機運を高める支援が必要と思われる。</p>

フォーラム及び研修の開催

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成29年度	<p>○平成30年度から新たに活動を実施する地域団体を募集するため、「みんなで取り組む地域づくりフォーラム」を開催した。</p> <p>○活動団体を対象に人材育成のための研修を実施した。</p>	<p><フォーラム> (開催日) 平成29年10月1日 (参加者数) 78名</p> <p><研修> (開催日) 平成30年3月26日 (参加者数) 22名 (研修内容) 他団体の先進的な取組の紹介</p>	<p>○フォーラムの開催により、事業周知がなされ、新たに事業を開始する団体が1団体発足した。</p> <p>○アンケート調査で利用ニーズが高かった移送サービスについて研修を行ったことで、団体が移送サービスの実施を検討する機会をつくった。</p>	<p>○移送サービスについては、ニーズが高く、地域も必要性を感じているものの、課題(使用する車両や保険、事故の際の補償等)が多く、現在も本格実施するまでに至っていない。</p>

事業報告書の作成

取組年度	取組の内容	取組の実績	取組による成果	取組の課題や反省点
平成30年度	<p>○「地域住民どうしの助けあいの活動」を取りまとめた報告書を作成した。</p>	<p>○事業報告書を作成した。</p> <p><事業報告書の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域団体の取組みの紹介 ・団体設立の経緯 ・活動を始める際のポイント 	<p>○事業報告書を作成し、活動団体の活動内容等を明確にしたことで、今後、地域住民どうしの助け合い活動を実施しようとする団体等が開設準備や運営の流れをつかむことができるようになった。</p>	<p>○団体が懸念している活動時の補償について、その解決策を事業報告書にまとめることができなかった。</p>

交付金事業の総括

KPIの達成状況を踏まえた取組の総括	<p>○平成28年4月時点で活動していたモデル3団体(あおばお助け隊、サポート緑ヶ丘宮繕グループ鶴山台北校区高齢者サポートセンター)に加えて、新たに1団体(光明台一丁目シルバーサポートの会)を活動団体として立ち上げることができた。</p> <p>○本事業の補助金を活用してはいないものの、協議の場での呼びかけをきっかけとして、新たな団体を2団体増やすことができた。</p> <p>○このことにより、全てのKPIが向上し、そのうち、サービス利用者数及び高齢者雇用者数については、目標値を達成することができたが、提供サービス数については、人材の確保や、ノウハウの蓄積に関する支援を十分にできず、目標値を達成することができなかった。</p> <p>○団体の活動に要する経費の一部を補助することで、活動団体設立の機運を高めようとしたが、一時的な補助金だけでは、活動団体の増加を促進するには不十分であった。</p>
交付金事業の成果を踏まえた今後の事業展開	<p>○活動団体が集まる機会を提供し、団体間の情報共有やノウハウを蓄積することで、支援メニューの拡充や活動団体がスムーズに活動できるよう、支援する。</p> <p>○活動にあたり、悩みや課題を抱える団体に対して、府内で先行した実績をもつ先輩団体の個別相談等の機会を提供する「大阪ええまちプロジェクト」(府事業)の活用を促す。また、民間等が実施している補助制度等の紹介により、継続的な活動を支援する。</p> <p>○町会・自治会、民生委員・児童委員、校区社会福祉協議会等の地域の各団体が集まる「協議の場」において、「事業報告書」を用いて、既存団体のノウハウを伝えることで、新たに活動を開始しようとする団体設立のサポートを行っていく。</p>